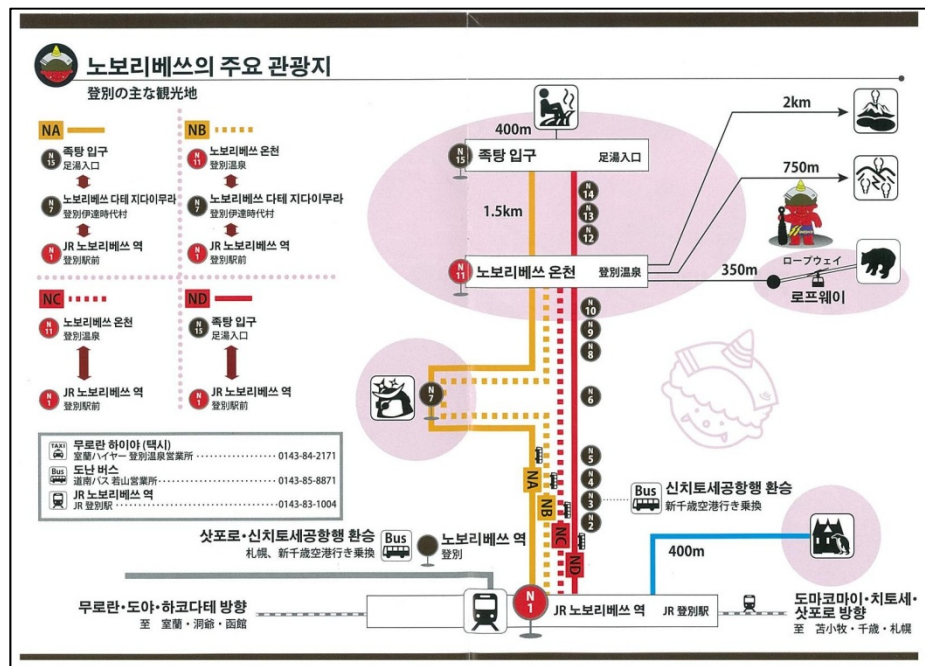


D 簡便な情報ツールの作成と活用

E-2 印刷物

1 「日本語併記」が基本

- 外国語だけだと、日本人には何が書いてあるのか分からず、問い合わせに即座に対応できないケースがあります。また、飲食店マップなどでは、地図上に目的のお店が英語で掲載されていても、看板が日本語なので現地に行ってもどこがそのお店なのかわからないという事態も想定されます。したがって、パンフレットやマップの作成にあたっては、日本語併記を基本とします。



ハンゲルと日本語併記の例

2 何語版なのかすぐ分かるように

- 何語版の印刷物なのか外国人も日本人も分かるように、日本語も併記して表紙にはっきりと記すと、間違えないで渡せます。色分けすることも効果的です。

3 変わる可能性、間違いがある可能性については断りを

- 金額や時間、数値など変更の可能性がある情報の場合は、必ず「〇〇現在の情報です。変わる可能性があります」と注記します。
- また、誤訳があるかもしれないことと、それによって生じる不利益・損害についての責任は負えない旨を記載します。